

◎フルオレサイト静注 [注]

【重要度】★★ 【一般製剤名】フルオレセイン Fluorescein 【分類】蛍光眼底造影剤

【単位】◎500mg/V [5mL]

【用法】200～500mg を肘静脈に注射

【透析患者への投与方法】慎重投与 (1)

【その他の報告】透析でよく抜けるため検査後速やかに透析で除去する (透析会誌 26:319-322, 1993)

カラスケールによる評価ではHDで50%程度の除去が見込める (河原純子, 他: 透析会誌 44: 695-698, 2011)

【保存期 CKD 患者への投与方法】主たる排泄経路が腎であるため腎障害のある患者では血中濃度上昇の恐れがあるため慎重投与となっているが、尿中未変化体排泄率が不明なため投与设计不可能 (5) 重篤な糖尿病には禁忌 (1) 高齢者には原則禁忌 (1)

【その他の報告】フルオレセイン Na は造影剤腎症に関連する可能性 (発生頻度 6～7%) [透析導入に関して造影剤腎症の基準として HR 2.23] (Yun D, et al: Nephrol Dial Transplant 2021 PMID: 31773157)

【特徴】本剤には薬理作用はないが、注射後 9～14 秒後に網膜や脈絡膜の血管に蛍光が出現する。網膜血管障害の診断や機能検査に用いられる。

【主な副作用・毒性】ショック・アナフィラキシー、心停止、悪心・嘔吐、搔痒感、紅斑、蕁麻疹、意識消失、頭痛、血圧低下など

【F】99% [po] (Barry RE, et al: Arzneimittelforschung1985 PMID: 4039592)

【tmax】120min [po] (Barry RE, et al: Arzneimittelforschung1985 PMID: 4039592)

【代謝】肝臓でグルクロン酸抱合を受けフルオレセイングルクロニドに代謝される (1) 腸肝循環し、ほとんどは尿中に排泄されるが、排泄量は尿量により変化する (Barry RE, et al: Arzneimittelforschung1985 PMID: 4039592)

【排泄】静注後 24～36 時間後でほとんど排泄され、大部分が尿中へ、一部が胆汁中に排泄される (1)

【t1/2】 α 相 4.6min、 β 相 47.4min、 γ 相 301min (1) 1hr 以下 (11) 267～286min (Barry RE, et al: Arzneimittelforschung1985 PMID: 4039592)

【透析患者の t1/2】21hr (非透析時)

【蛋白結合率】85% (1) 80～90% (11)

【MW】332.31

【透析性】血中濃度低下率 82.5% [4 時間 HD] HD クリアランス 1 時間値 20.2mL/min, 2 時間値 30.8mL/min (透析会誌 26: 319-22, 1993) 良好に除去され、カラスケールでは 3 回目の HD 前ゼロとなる (河原 純子, 他: 透析会誌 44: S807, 2011)

【薬物動態】静注後 24～36 時間で体内からほとんど排泄される。尿中へは未変化体のまま排泄される。透析時クリアランス : 33.5mL/min と低い。その理由として血漿蛋白以外にも赤血球へヘモグロビンとも結合するためではないかと考えられている【O/W 係数】0.6 (11)

【備考】【警告】重篤なショック症状があらわれることがある。

【更新日】20230916

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配付を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。